素材と絣柄を巧みに活かした多摩織ネクタイ

～　伝統の多摩織が洒脱なカジュアルに！　～

●多摩織って？

多摩織は、八王子を中心とした多摩地域で伝統的に織られてきた５種類の技法からなる絹織物の総称で、国の伝統的工芸品に指定されています。

強撚糸使いによる布表面の細かいシボ※1が特徴の「お召（めし）織」、玉※2糸やつむぎ糸を用い独特の節や凹凸のある「紬（つむぎ）織」、二重組織によるリバーシブル構造で柄を表現する「風通（ふうつう）織」、多色のよこ糸を使って絵画のように複雑な柄を描き出す「変わり綴（つづれ）織」、そしてからみ組織を用いてレースのような透け感のある布地を織り出す「綟（もじ）り織」があります。

きものや袴などの和装製品をはじめ、ネクタイ、財布、名刺入れなどの小物がつくられてきましたが、近年は後継者不足などの理由から技術の継承が危ぶまれています。

※1）シボ
　ちりめんなどに見られる布表面の細かいシワ状の凹凸。
※2）玉糸
　通常は蚕１頭で１個の繭をつくるが、２頭以上で１個の繭をつくることがあり、それからとった糸を玉糸と言う。一般の絹糸と比べて太く、不規則な節がある。

●絣を用いた新柄のネクタイ

伝統工芸士の吉水壮吉氏（電話042-625-2272）は、５種類のうちざっくりとした風合いが持ち味の「紬織」によるネクタイをつくっています。

柄はオーソドックスなストライプが中心でしたが、絣柄を入れて変化を加えた新柄の開発について相談を受け、当所でデザインを担当しました。

●素材感と絣柄をCGでシミュレーション

絣柄は、部分的に染め分けされた様々なパターンの糸（絣糸）の組み合わせや、配置のし方によってつくられます。

この絣糸を用いたストライプ柄や地紋、配色等をコンピュータを用いてシミュレーションし、デザインを作成しました。（図1～3）

そして紬織の持つ素材感と、シンプルでありながら絣によって変化の加えられた新たなストライプ柄により、ジャケットスタイル等に向く洒脱なカジュアルテイストのネクタイへと展開しました。（図4）

●今後の展開

これまでに20種以上の柄が製品化され、伝統的工芸品センターや百貨店などで販売されていますが、さらに様々な製品の開発を進めています。

事業化支援部　八王子支所
藤田　茂　TEL 042-642-2778
E-mail：fujita.shigeru@iri-tokyo.jp

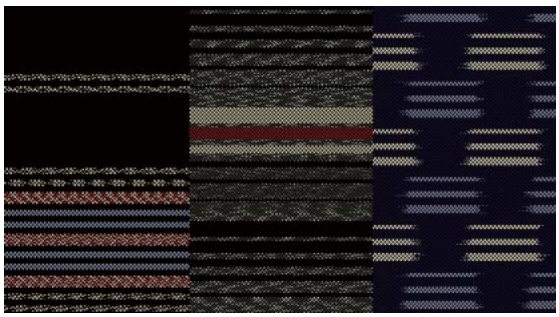

図1　絣を入れたデザインのシミュレーション

図2　ざっくりとした風合い

図3　小紋染めの裏地

図4　開発した多摩織ネクタイ

TIRI News
2008年1月号　通巻21号

発行日／平成19年12月25日（毎月1回発行）
発　行／地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター
総務部 情報システム課 広報係
〒115-8586 東京都北区西が丘3-13-10 TEL 03-3909-2151 内線275
企画・印刷／株式会社デジタル インプレッソ

（転載・複製をする場合は、情報システム課広報係までご連絡下さい。）

この印刷物は石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
古紙配合率100%再生紙を使用しています。